

令和5年10月15日開催の「臓器移植についての市民公開講座」で 聴講者から寄せられた質問への回答

	質問	回答
1	生体腎移植のドナーは、腎機能が50%に低下するとのことですが、提供者の5年後、10年後に自身が腎臓病や透析を受けることになるなどのデータはありますか？	日本移植内科研究会の調査では、腎提供後10年未満で透析になったドナーはおらず、10~15年で5例、16~20年で5例、20~25年で3例、25年以上で4例で透析導入となっています。その原因として、高血圧が原因の腎硬化症が多く、その他糖尿病、IgA腎症、腎がんにて摘出などとなっています。
2	厚生労働省の平成27年の資料でレシピエントが高齢(60歳以上)の場合、ドナーの年齢に関わらず生着率、生存率は明らかに悪かった。というのをみたんですけど、これは本当ですか？	事実です。 腎移植するしないにかかわらず、年齢を増すごとに平均余命が短くなりますので、腎移植後も年齢が増すとともに生存率は下がります。 日本臨床腎移植学会による2021年の集計では、生体腎移植後10年生存率は、50歳未満93%に対し、60歳台78%、70歳以上64%です。 10年後の生着率は50歳未満76%、60歳台71%、70歳以上57%です。
3	eGFRが60代からずっと60以下、たんぱく尿無し、糖尿無しなれどCKDだCKDだといわれて20年検査続行以外どういう変化に気を付ければいいのか。透析にまで進んだ人達のビッグデータを生かして何とか情報が欲しい。早期発見早期発見というから20年も早期発見されていく中で、対応が「様子見」だけでは何か不可解。	20年来、定期的なチェックを続けて腎機能を保持されていること、しっかりとした管理の賜物だと思います。残念ながら一度傷んで硬くなってしまった腎臓を元どおりにするお薬はまだなく、加齢による腎機能の低下も避けられません。ご質問者様の現在の腎機能(eGFR)にもよりますが、尿検査の異常もなく、eGFRの低下も加齢による影響の範囲内で年間1-2ポイント程度の低下であるようなら、健康的な生活や定期検査を継続しながら、以下の変化が見られた際には、腎臓内科医にご相談下さい。 ①これまでより早いペースで血中Cr(クレアチニン)の値の上昇やeGFR値の低下があり、特にeGFRが30以下に低下している ②尿蛋白や尿潜血がみられる ③浮腫や動いた時の息苦しさをかんじる

4	<p>15年前に急性骨髄性白血病の移植後免疫抑制剤により腎機能が徐々に悪化し、昨年透析(腹膜透析)導入致しました。そのような状態でも移植検討は可能でしょうか？</p>	<p>腎移植の検討は可能だと思います。白血病治療で骨髄移植をされた後に腎不全となられ、腎移植をうけられた症例は当院でも数例経験しております。質問者様が移植可能かについては、i) ドナーとなる候補者がいらっしゃるか、ii) 白血病や骨髄移植後の合併症の管理状態が落ち着いているか、iii) 腹膜透析が順調にできて全身状態が良好かどうか、といった点にかかってくると思います。腎移植をうけるには、全身麻酔下の手術をうける体力が必要であり、また移植後にはこれまでよりもさらに強い免疫抑制がかかるため、感染症や悪性腫瘍を発症するリスクもあがります。腹膜透析を管理する腎臓内科医師や腎移植専門医ともよくご相談いただき、ご自身や家族にとって納得のいく最良の治療方針を決定されることを願っております。</p>
5	<p>東金市在住、自分は腎臓機能が50%に低下していると診断されている。服薬としては降圧剤や尿酸に対する薬を処方されている。かかり付医は内科(胃腸科)で良いのか？改めて腎臓かをどこで受ければ良いか？eGFRは40、クレアチニンは1.5</p>	<p>現在のお薬による治療の他に、腎機能をできるだけ保持するため、食生活や適度な運動、体重管理、禁煙など、生活面でも腎臓への負担を極力へらすようにして下さい。 もし、尿検査で蛋白や潜血(血尿)がみられるようなら、高血圧や尿酸値が高いこと以外に、腎臓に炎症(腎炎)がおこって腎機能を障害している可能性がありますので、かかりつけ医に相談して、腎臓専門医へ紹介してもらってください。</p>
6	<p>まだ慢性腎臓病と告知されていませんが「薬は投与(ロケルマ懸濁用散分包5g)されています。今後透析が必要になった場合はどういう手順を取れば良いか教えてください。</p>	<p>腎機能障害が進行し、透析が必要な段階となったら、透析導入が可能な施設の腎臓内科に紹介してもらうことが必要になります。透析といっても、血液透析と腹膜透析という二種類の方法がありますし、さらには腎移植という選択肢もありますので、eGFR値が30、遅くても20前後の、まだ時間的猶予がある段階で、腎臓専門医にご相談下さい。ご自身に最適な治療を選択し、それにむけ十分な準備期間の後スムーズな治療導入が行えると、その後の心臓発作や脳梗塞などを発症する危険性は明らかに低下し、寿命も延びることがわかっています。</p>

7	腎臓機能は遺伝は関係ありますか？生活習慣・食生活の影響の方が強いでしょうか？	ある種の腎臓病には遺伝が関連し、ご家族に同様のご病気のある方が複数名いらっしゃるというケースもありますが、成人になってから発症する腎機能障害を示す大多数の方においては、遺伝や先天性の要因よりも、生活習慣や食生活からくる要因の関与の方が大きいと考えられています。
---	--	--